

宇部市教育委員会教育長賞

「もしものために」

宇部フロンティア大学附属中学校 2年 内海 愛希

「雨すごい降ってるねー。」

家の窓から地面に打ち付ける強い雨を母と2人で見ていました。宇部市では今年、過去15年で最も降水量が多い梅雨となりました。大雨の影響で学校が休みになった私は、嬉しくてスマホを片手に宇部市の天気予報を調べていました。私の住む地域にある川は見る見るうちに氾濫危険水位を超え、洪水が起きていました。

私は、こんな経験をしたのが初めてだったため、嬉しい気持ちもある反面、不安な気持ちもありました。この時は無事だったけれど、もしもの時のため、防災の準備をしているのか気になり、母に聞いてみました。すると母は、「そういえば、防災グッズとか何も準備してないなあ。」と、言っていました。私の住む地域では災害なんて滅多に起こらないため、私の家族は防災のグッズを準備する必要がないと思っていたそうです。

しかし、これから先も、災害のような悪いことが起こらないということは絶対にはないと思います。「災害なんて起こらないから」と目を背けるのではなく、大切な家族や友人、そして自分の命を守るため、いつどこで災害が起きても大丈夫のように防災について考えてみました。

早速私は、地域の消防団に所属している父に、今回の大雨での被害について聞いてみました。すると父は、何枚かの写真を見せてくれました。それは、洪水により、田畑や車、家が浸水してしまった場所で撮った写真でした。その中

まだまだ私は、災害や防災について知らないことばかりです。ですが、「ものために」身近で簡単なことから自分にできることを見つけ、自分の培った知識で行動していきたいです。

